

国語 第2学年 ことばについて考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：音や動き、感じを表す言葉を集めて、身近な出来事を詳しく書く。擬音語や擬態語を文に飾りとして足す前に、どの様子を伝えたいのかと結び付けて選ぶ。B(1)ウの学習として、様子が伝わる文カード。出来事と様子の言葉を書き、友達が思い浮かべた動きが自分の意図と合うか確かめる。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：様子が伝わる文カードを残す。出来事と様子の言葉を書き、友達が思い浮かべた動きが自分の意図と合うか確かめる。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：思い付いた音の言葉の意味を考えずに並べる。何の様子が伝わらない文になる。これについて、教師の動作や身近な音を言葉にして比べる。誰が何をした文を先に確かめ、様子の言葉をどこに入れるか声に出して試す。音が聞こえにくい児童には動きや視覚の例も用意する。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：様子が伝わる文カードは紙に記録できる。出来事と様子の言葉を書き、友達が思い浮かべた動きが自分の意図と合うか確かめる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：言葉をたくさん入れた文ほどよいのか。

返し：〔知識及び技能〕(1)オの語彙を豊かにする学習である。量ではなく、書こうとした動きや音に合う使用を見る。関連するB(1)ウに沿って文の続き方も確かめる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

